

駿河湾の深海魚 (13)

フリソデウオ (その1)

久保田 正 ・ 佐藤 武



図1. フリソデウオの成魚

1973年(昭和48)年10月19日 サクラエビ網混獲(由比沖). スケール: 300mm
本標本尾部は途中で切断されています(実際はもっと長い)

フリソデウオ (*Desmodema polystictum*) は、アカマンボウ目、フリソデウオ亜目、フリソデウオ科、フリソデウオ属に含まれる1種です。日本近海からこの属には他にオキフリソデウオが知られています。さらに近縁のサケガシラ属にサケガシラとテンガイハタ、そしてユキフリソデウオ属にはユキフリソデウオの合わせて本科には3属5種が知られています。また、英語で ribbon-fishes と呼ばれる本科魚類の他にアカナマダ科(2種)、リュウグウノツカイ科(1種)の3科に含まれる魚類は、すべて体が細長く、後半部は紐状をしているので紐体類(ちゅうたいいりい: Taeniosomi)と呼ばれています。どの種も沖合中層域の深海に生息しているため(但し底生性魚類ではない)、生きた姿を眼にすることができない希な魚類群です。

フリソデウオの成魚は、紫色をおびた銀白色の体で、背鰭は綺麗な薄赤色をしています(ホルマリン漬けの標本にすると退色します)。体長1m以上に成長し、体の前半部は、著しく側扁し、尾部は著しく伸長します。大きな眼の眼径は吻長よりも長く、また腹鰭は退化し、臀鰭は元々欠いています(図1)。

一方、体長20cm以下の若魚時代の体には濃灰色の円斑が散在し、頭部付近の背鰭は大きく伸びており、成長とともに短くなります。薄赤色の腹鰭は非常に長く目立っており、肛門の後方まで伸びています(図2)。この姿が着物の振袖に似ていることから和名の振袖魚(フ



図2. フリソデウオの若魚

1980(昭和55)年11月19日(腹鰭は体に付着している)
サクラエビ網混獲(富士川沖). スケール: 50mm

リソデウオ)に由来します。腹鰭は成長するとすっかり退化して全く別種の魚のようになります。一昔前の魚類図鑑には本種の成魚の存在が不明のため若魚の図が描かれていました。このように成魚と若魚の外形が全く違うことから、長らく親・子の関係にあることが判らなかつた魚類の一種です。

同じように成長段階で形態が著しく異なるのは本科魚類や他の魚類群でも知られています。因みに北太平洋北部の海域に分布するスズキ目イレズミコンニャクアジ科の体に黒い模様がある体長40~60cmのイレズミコンニャクアジ(若魚)と体全体がチョコレート色をしている体長2m位になるナガコンニャク(成魚)を挙げるすることができます。以前は別種とされていましたが、現在整理されて前者の和名で1種となりました。